

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自主・自律」を体現して「文武両道」で実践し、人生を主体的に切り拓き、社会に貢献することができる生徒を育成する。

- 1 総合力のある教育指導（授業、特別活動、部活動、生活習慣・規範力）ができる学校
- 2 生徒一人ひとりへのきめ細かな指導を行い、学力と進路の保証ができる学校
- 3 高い志と夢・グローバルな視野を持つ生徒を地域とともに育むことができる学校

2 中期的目標

- 1 教員・生徒がともに真摯に学ぶ姿勢を迫及し、授業力向上を図るとともに生徒一人ひとりに寄り添い、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する。
 - (1) 教科指導力の向上を図り、ICT活用を含め三島スタンダードに沿った学びの深化を推進する。
 - (2) 基礎学力の定着を図り、学力向上に向けた取組を推進する。
 - (3) 主体的に学ぶ意欲・態度を醸成し、家庭学習を推進する。
※授業評価における生徒満足度・・・肯定的評価 80%以上 (H29: 80%、H30: 77%、R1: 77%)
- 2 自らの進路実現に向けて粘り強く努力し続けることにより、社会の変化に柔軟に対応し、グローバル社会をリードすることができる生徒を育成する。
 - (1) 広い視野で自らの生き方を考え、学習意欲が向上するキャリア教育を推進する。
 - (2) 自学自習を推進するとともに、個別指導・講習の充実を推進する。
 - (3) 進路情報の共有・保護者への情報提供により、生徒の希望適性に応じた進路実現を支援する。
※国公立大学合格者数・・・現役合格者数；国公立大学 70 人以上（うち京阪神市府大 20 人）(H29: 48 人、H30: 55 人、R1: 57 人)
※センター試験受験者数・・・在籍者数の 80%以上 (H29: 85%、H30: 82%、R1: 77%)
- 3 体験的な活動をはじめ、あらゆる教育活動を通じて互いの違いを認め合い、協力・切磋琢磨する中で豊かな人間力を育成する。
 - (1) 部活動の充実を図るとともに、勉学との両立を推進する。
 - (2) 体育祭・文化祭・芸術祭・修学旅行をはじめとする学校行事の活性化を推進する。
 - (3) 人権教育・教育相談機能の充実を図るとともに、国際理解教育・ボランティア活動・読書活動・地域交流活動等を推進する。
 - (4) 自らを律して他者を思いやり、地球市民としての公民意識や規範意識を醸成する取組を推進する。
※部活動加入率・・・90%以上 (H29: 87%、H30: 91%、R1: 93%)
※国際理解教育における生徒満足度・・・肯定的評価 70%以上 (H29: 73%、H30: 78%、R1: 79%)
- 4 地域・保護者から信頼される安全で安心な学校づくりを「チーム三島」で推進する。
 - (1) 創立 50 年の節目を機に広報活動を充実させるとともに、PTA・後援会・同窓会・地域等と一層の連携を推進する。
 - (2) 教職員における危機管理力の向上を推進する。
 - (3) 「学び続ける」教職員の育成を組織的・継続的に推進する。
※新学習指導要領を踏まえた各科目の研究を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>・生徒 「学校に行くのが楽しい(89%)」「学校に親しい友人がいる(96%)」「学習評価は納得できる(91%)」「進路の情報を知らせてくれる(89%)」などは高い割合で肯定的な回答をしているが、「図書室をよく利用している(12%)」「ホームページをよく見る(23%)」「家庭での学習時間や内容に満足している(45%)」については、肯定的な回答が5割を下回っている。</p> <p>・保護者 「子どもが学校に行くのを楽しみにしている(86%)」「地震や台風などの場合の対応について知らされている(92%)」「子どもの評価を適切に行っている(77%)」などは高い割合で肯定的な回答をしているが、「生命の大切さを学ぶ機会を設けている(39%)」「施設・設備は句集環境面で満足できる(43%)」「ホームページをよく見る(45%)」については、肯定的な回答が5割を下回っており、分からないと回答している割合が高い。コロナ禍の影響から、例年高いポイントである「授業参観や学校行事に参加したことがある」が10ポイント以上低下した。</p> <p>・教員 「教材の精選・工夫を行っている(93%)」「教育活動全般について生徒や保護者の願いに応えている(83%)」「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている(93%)」などは高い割合で肯定的な回答をしているが、「研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝える機会が設けられている(24%)」「図書室が生徒に活用されている(36%)」については、肯定的な回答が比較的低くなっている。 これら複数の課題については、次年度の取組に活かしていきたい。</p>	<p>【第1回(7/13)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱中症対策について、学校でも積極的に対応していただきたい。 ・授業改善の見直しについて、PDCAサイクルとして示していくことも必要ではないか。 ・オンライン授業について、学びのツールとしての準備が必要ではないか。 ・挨拶・時間順守・交通マナーの大切さについて、生徒に浸透させる方策が大切ではないか。 <p>【第2回(11/30)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターの導入に伴い、生徒もよく集中しており3年前と比べてよくなった。 ・英語の発音の際、マスクをしているので口元が見えないため工夫が必要ではないか。 ・コロナ禍であっても、国際交流・国際理解の機会を確保してほしい。 ・オンライン授業の際、課題以外のサイトを見やすくなってしまっているのが問題である。 ・コロナの影響で生活が苦しくても学習活動できる保障を府や国に訴えてもらいたい。 <p>【第3回(2/19)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状で指標は十分達成できているので、それを維持するという形式でいいのではないか。 ・中学校での観点別評価の実践を高校で発表を行うことや、初任教員や部活動の生徒・教員間交流ができたことは刺激になった。 ・生徒用タブレットが1人1台貸与されるのであれば、教員用にも貸与が必要という声を協議会から府教委にあげたい。 ・情報機器の整備や人的援助が必要であれば、大学インターンシップや卒業生のボランティアで協力させてもらいたい。 ・学校教育自己診断の教員と保護者の認識差は、保護者への情報発信が不足していると思われる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の思考力・判断力・表現力の育成	(1)教科指導力の向上 (2)基礎学力の定着 (3)家庭学習習慣の定着	(1) ア 外部授業公開・校内授業公開を複数回実施する。 イ 校内外の研修を踏まえ、教科ごとの教育活動報告会を実施する。 ウ 普通教室のプロジェクターなど ICT 機器を授業で効果的に活用する。 (2) ア 総合基礎(朝学)PT を中心に科目内容の充実・精選を図る。 (3) ア 「家庭学習記録表」を活用し、家庭における学習習慣を定着させる。 イ 生徒の学習の参考となる「三島スタンダード」の充実を図る。	(1) ・教員相互の授業見学を相互の教科指導に反映する ・生徒の授業満足度における肯定的評価 80%以上 ：学校教育自己診断;生徒 (R1:77%) ・教員の ICT 活用における肯定的評価 50%以上 ：学校教育自己診断;教員 (R1:47%) (2) ・総合基礎の生徒満足度における肯定的評価 70%以上 ：朝学アンケート;生徒 (R1:66%) (3) ・生徒の家庭学習内容・時間満足度における肯定的評価 50%以上 ：学校教育自己診断;生徒 (R1:43%)	(1) ア・見学シートをもとに振り返りを行い教科指導に反映させた(○) イ・生徒の授業度における肯定的評価は 82%で5 割上昇(◎) ウ・教員の ICT 活用における肯定的評価 79%で 30 割以上上昇(◎) (2) ア・朝学アンケートの肯定的回答は 73%であり生徒も学年末まで落ち着いて学習することができ基礎学力が定着した(◎) (3) ア・生徒の満足度は 45%であるが、生徒の取組時間については増加傾向にある(○)
2 グローバル社会をリードできる生徒の育成	(1)キャリア教育の充実 (2)個別指導・講習の充実 (3)進路情報の共有・活用	(1) ア 広い視野で学問・職業を選択できるよう進路実現に向けたキャリア指導計画に基づき実施する。 イ 関西大学・大教大との連携活動を継続する。 (2) ア 各教科の講習を実施するとともに、自学自習の取組を全学年で進める。 イ 英語 4 技能を高める授業を進めるとともに、英語検定等の資格取得を推進する。 (3) ア 進路情報の分析を随時実施するとともに、データに基づき生徒の進路希望に応じた指導を行う。 イ 大学入試改革をはじめとする情報を的確に把握するとともに、生徒・保護者にわかりやすく情報を提供する。	(1) ・生徒の進路関連項目における肯定的評価 90%以上 ：学校教育自己診断 (R1:88%) ・関西大学・大阪教育大学との連携を継続する (2) ・長期休業中・早朝等に講習を実施する ・英語検定資格取得者の増加 ：学校把握分 (R1:68 人) (3) ・国公立大学現役合格者数の増加 ：進路入試結果報告 (R1:57 人) ・保護者の進路関連項目における肯定的評価 75%以上 ：学校教育自己診断;保護者 (R1:73%)	(1) ア・進路関連の肯定的評価は 89%でキャリアパスポートを活用しながら学問や職業選択のツールとして活用した(○) イ・情報の授業に関大生が TT で入り込みを行うとともに、大教大の連携事業に教員志望の生徒が参加し意欲が高まった(○) (2) ア・国理英で進路に応じた講習を実施した(○) イ・英検資格取得者は 19 人、コロナの影響で検定が中止となり外部受験者が減少したが、今後も生徒に働きかけていく(△) (3) ア・52 人(生徒比 15%)で最後まで諦めることなく努力する生徒を支援した(○) イ・保護者の肯定的評価は 73%であり、Web と講演のハイブリッドで今後も進路情報を提供する(○)

府立三島高等学校

<p>3 豊かな人間力の育成</p>	<p>(1)部活動の充実 (2)学校行事の活性化 (3)国際理解教育・地域連携の充実 (4)公民意識の醸成</p>	<p>(1) ア 部活動と勉強を両立させた活動や図書館活動を通じて、達成感や自尊感情を育む。 (2) ア 体育祭・文化祭・芸術祭等を通じて、自主自律の精神を涵養する。 イ 芸術祭や修学旅行など学校行事を通じて、本校の歴史に新たな伝統を創造する自覚を持たせる。 (3) ア 夏期オーストラリア語学研修・学校交流等をはじめ、国際交流活動を実施する。 イ 地元小学校・支援学校との地域交流活動や高槻市内の関係機関との連携を推進する。 (4) ア 生徒が主体となり、あいさつ・時間遵守・交通マナーの大切さを浸透させる。</p>	<p>(1) ・生徒の部活動等と勉強の両立における肯定的評価 60%以上：学校教育自己診断;生徒 (R1:56%) ・部活動加入率 90%以上を維持 ：部活動調査 (R1:1年生 93%) (2) ・生徒の学校行事への取組みにおける肯定的評価 85%以上：学校教育自己診断;生徒 (R1:84%) (3) ・生徒の国際理解における肯定的評価 80%以上 ：学校教育自己診断;生徒 (R1:79%) ・地元との部活動交流を4回以上実施する (4) ・生徒のルール遵守における肯定的評価 70%以上を維持 ：学校教育自己診断;生徒 (R1:72%) ・遅刻者数の減少：遅刻者統計 (R1:969人)</p>	<p>(1) ア・部活動と勉強の両立における肯定的評価は 60%で上昇傾向にある(◎) ア・部活動加入率は 98%でありここ数年で一番高く、活動も活発である(◎) (2) アイ・コロナの影響で学校行事を縮小せざるを得なかったが、肯定的評価は 87%であり、工夫して実施した成果であると考え(◎) (3) ア・コロナ禍の影響で語学研修を中止したため肯定的評価は 70%であったが、新たに三島独自のイングリッシュキャンプを3月に実施し、生徒の意欲が高まった(○) イ・コロナ禍の影響で祭りや支援学校との交流は中止したが、郡家小・高槻2中との交流を実施するとともに高槻阪急の催事場で美術・書道展を初開催した(◎) (4) ア・学年集会や放送を通じてルール遵守をアピールしており、肯定的評価が 74%に上昇した(○) ア・遅刻者は 660 人に大幅に減少(◎)</p>
<p>4 安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1)広報活動の充実 (2)人権教育・教育相談機能の充実 (3)人材育成の推進</p>	<p>(1) ア 生徒の活動や地域連携活動を HP で随時公開するとともに、効果的な中学校訪問・学校説明会を実施する。 イ 創立 50 周年事業で整備した機器等を効果的に活用するとともに、PTA・後援会・同窓会・生徒・教職員オール三島で連携を進める。 (2) ア カウンセリングマインドを取り入れた教育指導を組織的に行う。 イ 本校で実施する人権教育を再構築する。 (3) ア 教員の専門的知識を研鑽する今日的な課題の校内研修を実施するとともに経験の少ない教員への教科・分掌での使命を明確にする。 イ 教員の働き方改革を推進するため、指導等の改善や会議等の精選、職場環境改善を進める。</p>	<p>(1) ・HP の生徒・保護者連絡を充実し、情報を毎月更新する ・本校及び地域開催の学校説明会参加者数 2000 人以上 ：リーフレット配布数 (R1:統計なし) ・創立 50 周年記念事業における校内環境整備(特別教室等の空調整備)を円滑に推進する (2) ・生徒の教育相談関連項目の肯定的評価の向上 ：学校教育自己診断;生徒 (R1:54%) (3) ・教員の校内研修関連項目の肯定的評価の向上 ：学校教育自己診断;教員 (R1:57%) ・経験の少ない教員に対する講座を定期的実施するとともに育成の観点から経験年数の少ない教員の分掌間異動を進める ・会議時間・朝の電話対応時間を 10%削減する (R1:職員会議 1260 分)</p>	<p>(1) ア・HP をスマホ対応に見やすく改修し、毎月更新を実施した(○) ア・コロナの影響で外部会場の説明会が中止となったが、1584 人が説明会等に来場した(◎) イ・記念事業で空調・冷風機・製氷機・グラウンド照明等、PTA から教室用サーキュレーター・植樹等を整備いただいた(◎) (2) ア・生徒相談関連の肯定的評価は 60%となり、今後も生徒に寄り添った指導を行う(○) (3) ア・計画的な研修に対する肯定的評価は 55%であるが、京大石井准教授、佛大原教授を急遽招き制度理解や生徒支援に繋がった(○) ア・初任者研修のフォローアップを実施するとともに、経験年数の少ない教員の分掌間異動を実施(○) イ・コロナ対応があったものの1月時点で 600 分、1,000 分以下に収まる予定(○)</p>